

水島港唐船線改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査  
なかついせき  
**中津遺跡 現地説明会資料**

令和6年10月16日(水曜日) 中津遺跡発掘調査現場(倉敷市玉島黒崎)  
主催：岡山県古代吉備文化財センター

岡山県古代吉備文化財センターでは、水島港唐船線改築工事に伴い、中津遺跡の発掘調査を令和6年6月から行っています。

この遺跡は、竜王山塊から流れる屋守川が形成した扇状地端部にあり、遺跡の東側は中世まで海に接していました。調査地の南にある中津貝塚は、縄文時代後期初頭(約4,000年前)の基準となる土器が発見されたことで著名な遺跡であり、縄文時代晩期の土坑墓からは人骨も見つかっています。



中津遺跡周辺のおもな遺跡  
(S=1/25,000)

貝層からはハイガイ・アカニシ・オキシジミなどの貝類、貝層周辺からは縄文時代後期～晩期の土器や石鏃・石斧・石匙などの石器、古代～中世の土器などが出土しています。このほかに、製塩土器(塩づくり用いた土器)や土錘・石錘(漁労用のおもり)など、海辺の暮らしがうかがえるものも見つかりました。

本資料の内容は、調査につき変更の可能性があります。  
引用・改変・再配布はご遠慮ください。



	B.C 500年		A.D 500年			A.D 1000年		A.D 1500年		A.D 2000年							
時代区分	縄文時代		弥生時代			古墳時代		飛鳥時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	室町時代	安土・桃山時代	江戸時代	明大昭平 治正和成		
	晩期	前期	中期	後期	前期	中期	後期										
	原		始					古		代		中		世		近	世



かいそう  
貝層①

ハイガイを主体とする貝が密に堆積。最も厚い部分で約 20 cm。縄文土器小片出土。



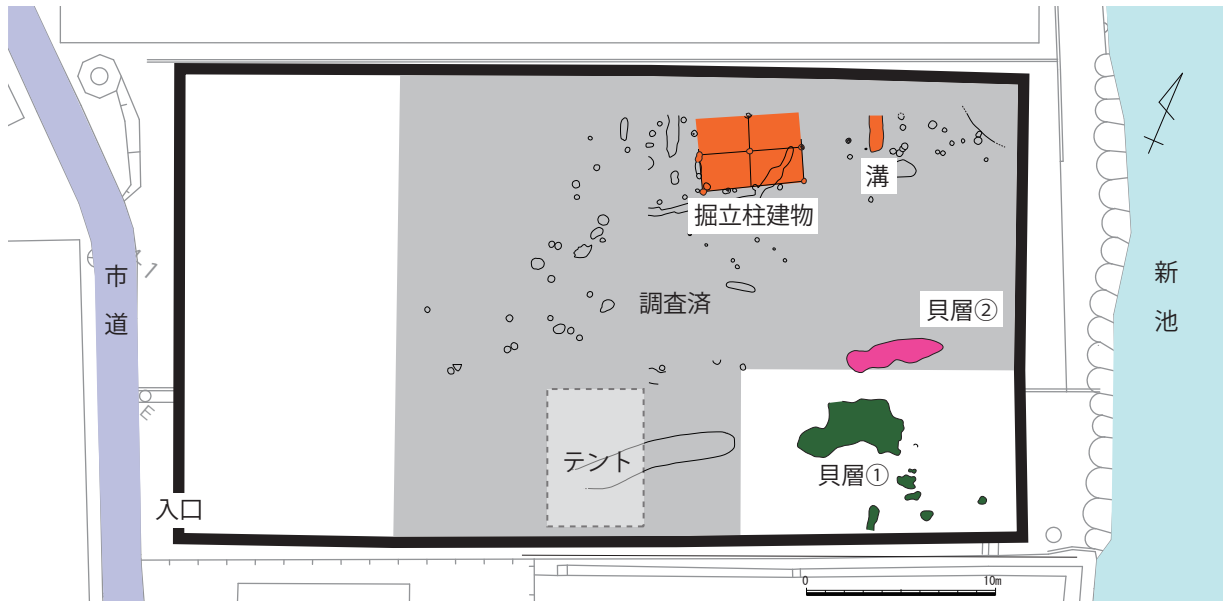
貝層②

縄文時代の貝層が再堆積した層。完形のはじきつき土師器杯など土器が数点まとまって出土。



ほったてばしらたてもの  
掘立柱建物

2間×2間以上の建物。床面積は 20 m<sup>2</sup>以上。



溝

完形品の土師器碗などの土器がまとまって出土。

調査区とおもな遺構  
(S=1/400)